

科目名	建築構造力学Ⅰ						
科目名(英)	Building Structural Mechanics						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	古賀 俊光
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	設計事務所にて 設計担当
対象学科・学年	建築学科 1年						
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要である。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となる。この授業では、構造力学の基本となる力の考え方を身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				力の合成と分解および合力を計算することができる。	
		○				モーメントと合モーメントを計算することができる。	
		○				力およびモーメントのつり合い式を立てることができる。	
		○				構造物の反力を計算することができる。	
		○				構造物の応力図を書くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	基礎数学テスト					
	2	力の合成				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	力の分解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	力のモーメント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	確認テスト(1)、荷重・力学モデル				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	6	力のつり合い				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	単純梁の反力計算(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	単純梁の反力計算(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	片持ち梁、張り出し梁の反力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	単純ラーメンの反力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	確認テスト(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	12	単純梁の応力(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	単純梁の応力(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	単純梁の応力(3)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	確認テスト(3)総合問題				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				40%
	小テスト		◎				40%
	宿題・レポート		◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築施工 I						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	集路 正巳
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	建設会社にて 施工管理担当
対象学科・学年	建築学科・1年						
授業概要	建築施工の位置づけと建築生産の基本理念を理解する。 建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を理解する。						
授業形式	講義： ○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○	○				建築生産の仕組みを理解し、説明できる	
	○	○				請負契約から工事計画、工事管理まで理解し、説明出来る	
	○	○				建築工事を構成する様々な工種を理解し、概要を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	建築生産の基本概念と着工までのあらまし 建築生産(設計と施工)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	2	施工者を選定し、工事請負契約をむすぶ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	3	工事に着工する(着工)①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	4	工事に着工する(着工)②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	5	仮設・準備工事①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	6	仮設・準備工事③					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	7	土工事・地業工事・基礎工事					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	8	確認テスト① 鉄筋コンクリート工事概説					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと
	9	鉄筋工事①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	10	鉄筋工事②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	11	型枠工事					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	12	コンクリート工事①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	13	コンクリート工事②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	14	コンクリート工事③					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	15	確認テスト②まとめ					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				40%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築法規 I									
科目名(英)										
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	徳田 美穂子	
実施年度	2019年度			実施時期	前期			実務家教員 担当科目	建築士事務所にて 設計担当	
対象学科・学年	建築学科 1年									
授業概要	建築法規の学習を通して、建築に関する基本的な考え方や建築の在り方について学習する。建築法規 I ではまず条文の読み方・体系・用語の定義からはじめて、具体的な建築基準(面積・採光・換気・高さ)について学んでいく。									
授業形式	講義: O		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:O その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	O	O				建築基準法の主要部分(1条目的、2条、88条。施行令1条)につき制定内容を説明するすることができる。				
	O	O				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。				
	O	O				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。				
		O				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。				
テキスト・教材 参考図書	・建築関係法令集 法令編									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	建築基準法の概要					建築基準法1条目的を一読			
	2	条文の読み方・法令の体系					インデックスを貼り終えておく			
	3	用語の定義①					建築基準法2条一項一号を一読			
	4	用語の定義②					建築基準法2条、施行令1条を一読			
	5	用語の定義③					建築基準法2条、88条を一読			
	6	用語の定義④					前回までの内容を復習			
	7	確認テスト					確認テストで間違えた内容を見直し			
	8	面積の算定①					建築基準法施行令2条、42条を一読する			
	9	面積の算定②					建築基準法施行令2条、42条を一読する			
	10	高さの算定等					建築基準法施行令2条を一読する			
	11	居室の採光①					建築基準法28条、施行令19、20条を一読する			
	12	居室の採光②					建築基準法28条、施行令19、20条を一読する			
	13	居室の換気					建築基準法施行令20条、129条の2の6を一読する			
	14	居室の天井高さ・床の高さ					建築基準法施行令21条を一読する			
	15	確認テスト					定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)受講態度(出席状況等)。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	O				80%			
	小テスト	◎	◎				20%			
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	建築設計製図Ⅰ									
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING									
単位数	4単位			時間数	60時間		担当者	峯元 幹雄		
実施年度	2019年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科 1年									
授業概要	建物の概要は設計図で表現される。そのため設計図を正しく読み取る力および正確に表現することが求められる。 本授業では、製図道具の使い方、線の描き方など製図の書き方を習得し、木造建築物の一般図の種類と表現方法・内容理解を目指す。									
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○	○			製図道具の使い方を理解し、使用することが出来るようになる				
	○	○				木造建築の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。				
		○	○			製図の基本に則して木造建築物の配置図及び平面図を作図することができる。				
		○	○			製図の基本に則して木造建築物の断面図及び立面図を作図することができる。				
		○	○			製図の基本に則して木造建築物の矩計図を作図することができる。				
テキスト・教材 参考図書	彰国社 定番建築製図入門									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	製図用具の説明・名入れ・線の練習					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	2									
	3	配置図の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	4									
	5	模型から図面をおこす					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	6									
	7	木造建築物(平屋)の平面図の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	8									
	9	木造建築物(平屋)の立面図・断面図の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	10									
	11	丸屋根のある住宅の図面作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	12									
	13	テラスとピロティのある住宅の図面作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	14									
	15	木造建築物の平面図の作成(2回目)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	16									
	17	木造建築物の立面図・断面図の作成(2回目)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	18									
	19	木造建築物(2階建て)の平面図の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	20									
	21	木造建築物(2階建て)の立面図・断面図の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	22									
	23	木造建築物(2階建て)の矩計図の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	24									
	25	木造建築物(2階建て)の伏図(基礎、床、小屋)の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	26									
	27	有名住宅パネル製作課題					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	28									
	29	2級建築士国家試験問題①トレース					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
30										
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	課題提出		○		○		30%			
	課題作品		○	○			60%			
	提出状況		○		○		10%			
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。									

科目名	建築計画Ⅰ						
科目名(英)	Architectural planning and designⅠ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	栗山 泰子
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	建築学科1年						
授業概要	社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。 以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等も行う予定である。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		建築計画とは何かを説明できる	
	○			○		既存の建築計画を調査・研究している	
	○			○		これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する	
テキスト・教材 参考図書	初學者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代 参考図書:建築ガイダンス初めて建築を学ぶ人のために、コンパクト建築設計資料集成、「新建築」等の建築雑誌						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介(教員・学生)					
	2	シラバス説明、建築計画とは、住様式と住宅の変化					
	3	戸建て住宅 配置計画・平面の類型					
	4	戸建て住宅 各室の計画1					
	5	戸建て住宅 各室の計画2					
	6	戸建て住宅 各室の計画3・規模計画					
	7	戸建て住宅の計画1					
	8	戸建て住宅の計画2					
	9	中間テスト					
	10	集合住宅 団地計画					
	11	集合住宅 集合住宅の種類1					
	12	集合住宅 集合住宅の種類2					
	13	細部計画1					
	14	細部計画2					
	15	細部計画3					
評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、 期末試験の結果等により総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				
	小テスト						
	宿題・レポート	○	◎				
	発表・作品				○		
履修上の注意	先ずテキストをしっかり読んで予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。						

科目名	建築計画Ⅱ									
科目名(英)	Architectural planning and designⅡ									
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	栗山 泰子	
実施年度	2019年度			実施時期	前期			実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築学科1年									
授業概要	社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身に付け、人間が生活する空間を学ぶ。 以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等も行う予定である。									
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○			○		建築計画とは何かを説明できる				
	○			○		既存の建築計画を調査・研究している				
	○			○		これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する				
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	3－1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷、幼稚園の計画1								
	2	3－1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷、幼稚園の計画2 / 西洋・日本建築史Ⅰ								
	3	3－1幼稚園(保育所) 各室計画 / 西洋・日本建築史Ⅱ								
	4	レポート課題①								
	5	3－2小学校・中学校 小学校・中学校の変遷 / 西洋・日本建築史Ⅲ								
	6	3－2小学校・中学校 学校の計画、校舎の計画 / 西洋・日本建築史Ⅳ								
	7	3－2小学校・中学校 新しい教育形態への対応 / 西洋・日本建築史Ⅴ								
	8	レポート課題②								
	9	7－1外部空間の把握 建築物と外部空間、外部空間の認識方法 / 西洋・日本建築史Ⅵ								
	10	7－2外部空間の把握 外部空間のスケール / 西洋・日本建築史Ⅶ								
	11	レポート課題③								
	12	7－2外部空間の計画手法 都市の通過空間・都市の広場 / 西洋・日本建築史Ⅷ								
	13	7－2外部空間の計画手法 住宅地の外部空間 / 西洋・日本建築史 総括								
	14	後期授業総括(1～13回)、レポート課題発表①②								
	15	レポート課題③発表								
評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		○					80%		
	小テスト									
	宿題・レポート		○			○		10%		
	発表・作品		○			○		10%		
履修上の注意	まずテキストをしっかりと読んで予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。									

科目名	建築一般構造Ⅰ											
科目名(英)	Introduction of Building ConstructionⅠ											
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		古賀 俊光		
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	建築学科 1年											
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。											
授業形式	講義: ○			演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				木材と木質材料について説明することが出来る。						
	○	○				木材の接合(仕口、継手)の名称と特徴について説明することが出来る。						
	○	○				木材の接合(釘、ボルト、金物)の名前と特徴について説明することが出来る。						
		○				壁倍率と壁量の算出をすることが出来る。						
	○	○				木造の各部の構造について説明することが出来る。						
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版											
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示				
	1	建築物の構成要素、構造の安定と不安定										
	2	建築物に作用する外力とその伝達メカニズム						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	木質構造の概要						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	木材と木質材料						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	木材の接合(仕口、継手)						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	木材の接合(釘、ボルト、金物)						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7	軸組(1)						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	8	軸組(2)						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	9	壁倍率と壁量						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	小屋組・確認テスト						授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	11	床組						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	12	枠組壁構法						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13	各部の構造(屋根、床、階段)						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	14	各部の構造(壁、天井、開口部)						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	15	構造Ⅰの総まとめ						授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		◎								40%
	小テスト	◎		◎								40%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	建築材料 I											
科目名(英)	Building material I											
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	平山 文彦				
実施年度	2019年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	建築学科1年											
授業概要	建築材料のうち、構造材料である木材、コンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ											
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				木材の物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。						
	○	○				コンクリートの物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。						
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築材料 市ヶ谷出版											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	建築材料とは					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	2	木材の基本的な特徴(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	木材の規範的な特徴(2)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4	建築用木材の性質(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5	建築用木材の性質(2)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	6	建築用木材の性質(3)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	7	築用木材の性質(4)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	8	木質材料(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	9	木質材料(2)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	10	コンクリートの発達と利用					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	11	コンクリートの基本的性質(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	12	コンクリートの基本的性質(2)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	13	コンクリートの基本的性質(3)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	14	コンクリートの基本的性質(4)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	15	まとめ					授業ノート、プリント等の確認					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		○								80%
	小テスト	○		○								10%
	宿題・レポート	○		○								10%
	発表・作品											
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	JWCAD I						
科目名(英)	jwcad exercise						
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	吉田 麻美
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築学科・1年						
授業概要	Jw-CADのコマンド操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得 用紙サイズ・尺度・寸法など製図知識の習得 木造住宅・鉄筋コンクリート造の計画・各部分の名称・構造等の習得						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
		○	○			覚えたコマンドを効果的に活用して図面のトレースを行うことができる。	
	○	○				用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールに従った正確な作図を行うことができる。	
		○	○			木造住宅、鉄筋コンクリート造の配置図・平面図・断面図を作成することができる	
		○	○			自ら用途に応じてJwCADの各種設定を行うことができる。	
		○	○			レイヤの設定、かき分けができる。	
テキスト・教材 参考図書	初めての建築CAD:学芸出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1 2	JW-cadの基本操作(1)線分・消去・矩形・中心線・複線					
	3 4	JW-cadの基本操作(2)円・円弧・接円・接点・点					前回の復習を行うこと
	5 6	JW-cadの基本操作(3)伸縮・コーナー・面取・分割					前回の復習を行うこと
	7 8	JW-cadの基本操作(4)複写・移動・パラメトリック・多角形・測定					前回の復習を行うこと
	9 10	作図課題1(木造住宅)①図枠作成・レイヤ設定・配置図作成					前回の復習を行うこと
	11 12	作図課題1(木造住宅)②配置図作成					前回の復習を行うこと
	13 14	作図課題1(木造住宅)③レイヤ設定・1階平面図作成					前回の復習を行うこと
	15 16	作図課題1(木造住宅)④1階平面図作成・2階平面図作成					前回の復習を行うこと
	17 18	作図課題1(木造住宅)⑤2階平面図作成					前回の復習を行うこと
	19 20	作図課題1(木造住宅)⑥建築概要作成・印刷設定					前回の復習を行うこと
	21 22	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)①1階平面図作成・包絡コマンド					前回の復習を行うこと
	23 24	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)②1階平面図作成					前回の復習を行うこと
	25 26	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)③2階平面図作成					前回の復習を行うこと
	27 28	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)④断面図作成					前回の復習を行うこと
	29 30	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)⑤断面図作成・印刷設定					前回の復習を行うこと
	評価方法	(1)7つの課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題提出			○		○		30%
課題作品			○	○			60%
提出状況			○		○		10%
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	Photoshop Illustrator I										
科目名(英)	Photoshop Illustrator I										
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		松本剛太	
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築学科 1年										
授業概要	Photoshopの基本操作と、業界における重点を学ぶ それら基礎知識の浸透が目的										
授業形式	講義: ○			演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				Photoshopの役割を理解する					
	○	○				Photoshopによる画像補正 修正処理ができる					
	○	○				画像の基礎知識を理解している					
	○	○				Illustratorとの連携を意識した処理ができる					
テキスト・教材 参考図書	情報リテラシー Office2016										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	IllustratorとPhotoshopの基本 ベクトルとラスターの理解					Photoshopのインストール				
	2	レイヤー操作と色調補正									
	3	選択範囲について 各種選択ツールの解説と用途									
	4	色の設定とペイント操作 色の設定 グラデーション									
	5	レイヤーマスクを使う 概要と設定方法 利用シーン									
	6	文字、パス、シェイプ 文字入力と編集 Illustratorとの違い									
	7	画像の修正と加工 ゴミや不要物を消す 変形									
	8	フィルターとレイヤースタイル フィルターとレイヤースタイルの違い									
	9	レイヤースタイルの利用シーンと意味									
	10	PhotoshopとIllustratorの連携 画像の配置とその機能特性									
	11	Photoshop練習問題1 練習問題の解説									
	12	Photoshop練習問題2 練習問題の解答									
	13	Photoshop練習問題 回答と解説									
	14	Photoshop練習問題3 解説なしでの独力解答									
	15	Photoshop練習問題3 解答と解説									
評価方法	習問題を小テストとして評価 3種実施、その提出により評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		評価割合	
	小テスト	◎		○						100%	
履修上の注意											

科目名	建築図学A									
科目名(英)	ARCHITECTURAL PERSPECTIVE I									
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	石原達也	
実施年度	2019年度			実施時期	前期			実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	建築学科 1年									
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要である。オーナーの希望を具体化し 絵 として表現する事により、より解りやすく表現する方法です。 建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。									
授業形式	講義： △			演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				建築パースの役割と意義を説明できる。				
		○	○			1消点(グリッド法)図法を使ってパースを描ける				
		○	○			2消点(グリッド法)図法を使ってパースを描ける				
		○	○			図面を使って室内のフリーハンドイメージパースを描ける				
		○	○			内観パースに着色し、カラーパースとして完成させる。				
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	概要説明 建築パースの重要性・必要性								
	2	内観1消点法・基本・変形					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	3	斜め家具の配置					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	4	ベッドルームの作成					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	5	和室のパース作成					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	6	リビングルームの作成					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	7	外観2消点法・基本					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	8	3階建ビルの外観パースを作成					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	9	2階建ビルのパース					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	10	2階建住宅のパースを作成 1					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	11	2階建住宅のパースを作成 2					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	12	切妻住宅の外観パースを作成 1					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	13	切妻住宅の外観パースを作成 2					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	14	着色1					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
	15	着色2					課題は次の授業までに終わらせておくこと			
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	課題提出		○		○		30%			
	課題作品		○	○			60%			
	提出状況		○		○		10%			
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。									

科目名	ビジネスマナーⅠ											
科目名(英)	Business manner											
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		津嘉山 佳子		
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	全学科対象・1学年											
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客応対、電話応対、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。											
授業形式	講義：○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
					○	立居振る舞いを身に付ける						
	○	○				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。						
		○				ビジネス文書について理解し、作成することができる。						
		○				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する						
				○		基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。						
テキスト・教材 参考図書	・公益財団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級 ・早稲田教育出版 サービス接遇検定3級 実問題集第39回～43回											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	社会人としての心構え― 社会と組織・仕事と成果					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	2	基本動作 立居振る舞い ― 第一印象について 基本動作練習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	言葉遣いの基本① ― 話の仕方・話の聞き方 敬語の基本					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4	言葉遣いの基本② ― 間違いやすい敬語の解説					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5	言葉遣いの基本③ ― よく使われる接遇用語・クッション言葉					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	6	サービス接遇検定対策 ― 必要とされる用件					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	7	サービス接遇検定対策 ― 従業員件・専門知識・専門用語					専門用語確認テストを実施するので、復習をしておく					
	8	サービス接遇検定対策 ― 専門用語確認テスト・一般知識					一般知識確認テストを実施するので、復習をしておく					
	9	サービス接遇検定対策 ― 一般知識確認テスト 用語について復習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	10	交際業務1 ― ビジネス文書の種類・社外文書のスタイルについて					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	11	交際業務2 ― 社内文書のスタイルについて 文書作成に必要な用語					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	12	交際業務3 ― 封筒の書き方 縦書き・横書き 返信はがきの書き方					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	13	交際業務4 ― 郵便の知識について(適切な郵送方法が選択できる)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	14	交際業務5 ― 冠婚葬祭について					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	15	学習のまとめ ― 今期学んだことの復習、理解を深める					定期試験に備えて、復習をしておくこと					
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		○								75%
	小テスト	○		○								15%
	態度・意欲・出席							○		○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	就職実務ⅠA											
科目名(英)												
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		各担任		
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	建築学科 1年											
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する											
授業形式	講義: ○			演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる						
	○			○		基本的な面接対応ができる						
		○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある						
	○	○				企業研究の方法を知っている						
		○				学校求人を利用するための条件を知っている						
テキスト・教材 参考図書	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック											
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	就職活動における心構え / 働くということを考える 知る										
	2	就職活動における心構え / 自分が働く業界の形態や常識を知る										
	3	就職活動における心構え / 業界に必要なサービスとは										
	4	就職活動における心構え / 業界に必要なスキルとは										
	5	就職活動における心構え / 作品集の価値とは										
	6	就職活動における心構え / 作品集をイメージする1										
	7	就職活動における心構え / 作品集をイメージする2										
	8	就職活動における心構え / 自分の作品集計画を見つめ直す										
	9	履歴書 / 自己分析 自己PR										
	10	履歴書 / 自己分析 得意分野 特記事項										
	11	履歴書 / 自己分析を履歴書としてまとめる										
	12	面接練習 / 面接の重要性 意味を知る										
	13	面接練習 / 入退室の練習										
	14	面接練習 / 面接練習を各自実施 履歴書の内容を話すトレーニング										
	15	面接練習 / 面接練習を各自実施 履歴書の内容を話すトレーニング										
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	出席状況							◎				60%
	受講態度・意欲	○		○								30%
	課題の提出	○		○								10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする											

科目名	GCB I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	各担任
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	全学科対象・1学年						
授業概要	社会人基礎力と志(使命感)、感謝や思いやり等(基本的な人間力)の要素をコンピテンシーと定め、GCBの中で学びます。GCB Iでは、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)、「感謝と思いやり」について学びます。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間力)であることを知る	
	○	○		○		「感謝心」が人間力の根底にあることを知る	
	○	○		○		人間力を高めるためのマナーの重要性に気づく	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう グローバルシティズンとは				テキストを熟読しておく	
	2	「協働」の態度を持った学生生活 「働く」ことの幸せとは				テキストを熟読しておく	
	3	より良い人間関係の構築に向けて モラル・ルール・マナーの重要性				テキストを熟読しておく	
	4	マナーの本質 I 思いやり・気配りのカタチ				テキストを熟読しておく	
	5	マナーの本質 II 相手に敬意を表する・思いを伝える“あいさつ”				テキストを熟読しておく	
	6	グローバル・シティズンとしての日常				テキストを熟読しておく	
	7	グローバル・シティズンとしての目標				テキストを熟読しておく	
	8	グローバル・シティズンとしての「志」に向けて				テキストを熟読しておく	
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	福祉住環境											
科目名(英)												
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		中園 理恵子		
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○		
対象学科・学年	建築工学科1年											
授業概要	福祉住環境コーディネーター3級試験対策の問題演習を通して、福祉住環境コーディネーターの知識の習得を図る											
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					福祉住環境整備の重要性・必要性を理解できる。						
		○				高齢者の健康と自立に関しての知識がある。						
		○	○			バリアフリーとユニバーサルデザインを考えることができる。						
		○	○			住まいの整備のための基本技術がある。						
		○	○			ライフスタイルの多様化と住まいをデザインすることができる。						
テキスト・教材 参考図書	福祉住環境コーディネーター検定試験3級 公式テキスト 東京商工会議所編											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	第1章 暮らしやすい生活環境をめざして					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	2	第2章 健康と自立をめざして					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	第3章 バリアフリーとユニバーサルデザイン					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4	第4章 安全・安心・快適なすまい					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5	第5章 安心できる住生活とまちづくり					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	6	第1章 振り返り中間テスト					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと					
	7	第2章 振り返り中間テスト					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと					
	8	第3章 振り返り中間テスト					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと					
	9	第4章 振り返り中間テスト					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと					
	10	第5章 振り返り中間テスト					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと					
	11	過去問題・予想問題①					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと					
	12	過去問題・予想問題②					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと					
	13	過去問題・予想問題③					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと					
	14	過去問題・予想問題④					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと					
	15	直前模擬試験					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと					
評価方法	本検定試験合格者は点数に関わらずS評価 不合格者は中間テスト、小テスト、平常点により総合的に評価する。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	検定試験	○		○								70%
	直前模擬試験	○		○								10%
	中間テスト	○		○								10%
	小テスト	○		○								5%
	宿題	○		○								5%
履修上の注意	予習復習をしっかりとすること。											

科目名	数学ゼミA									
科目名(英)										
単位数	1単位			時間数	15時間		担当者	吉田麻美		
実施年度	2019年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築学科 1年									
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す									
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				正の数と負の数が含まれた基本的な数式問題が解ける				
	○	○				1次方程式の基本問題が解ける				
	○	○				比例と反比例の基本問題が解ける				
	○	○				図形に関する基本問題が解ける				
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	【演習問題】 正の数と負の数、いろいろな計算(四則計算)					解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。 また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。			
	2	【演習問題】 文字式の計算 1次方程式								
	3	【演習問題】 文字式の計算 1次方程式 1次方程式の利用								
	4	【演習問題】 比例と反比例								
	5	【演習問題】 比例と反比例 比例と反比例の利用								
	6	【演習問題】 平面図形								
	7	【演習問題】 空間図形								
	8	【演習問題】 総合演習 まとめ								
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	出席状況					◎		60%		
	受講態度・意欲	○		○				30%		
	課題の提出	○		○				10%		
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする									

科目名	BIM 専攻 I A(選択)							
科目名(英)	Building Information Modeling I A							
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	道脇 力	
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	建築系共通							
授業概要	・ARCHICADの基本的な操作の習得。 ・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。							
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○			○		覚えたコマンドを効果的に活用してモデリングを行うことができる。		
	○			○		モデルから基本図を生成し、図面化を行うことができる。		
	○			○		材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。		
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22 Magic Vol. 1及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	BIMの概要、モデル入力「メッシュ、柱、梁、壁」					テキストを見て予習を行うこと	
	2	モデル入力「ドア、窓、スラブ、階段、オブジェクト」					前回の復習を行うこと	
	3	モデル入力「2階、3階、屋上の作成、カーテンウォール」					前回の復習を行うこと	
	4	モデル入力「断面図、立面図、レンダリング、レイアウト」					前回の復習を行うこと	
	5	課題1:モデル再入力「1階、2階」					前回の復習を行うこと	
	6	課題1:モデル再入力「3階、屋上、レイアウト」					前回の復習を行うこと	
	7	環境モデル作成、材質設定、レンダリング設定					前回の復習を行うこと	
	8	プレゼンテーションボード作成「データ提出」					前回の復習を行うこと	
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	発表・作品		◎		○		50%	
	課題提出		◎		○		50%	
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。							